

4. 外部評価委員会による意見

【学校施設整備事業】

- 「校舎棟トイレ洋式化事業」について、トイレの洋式への変更はいつを目途に 100 パーセントになるのか教えていただきたい。

(市の取組状況等)

トイレの洋式化 100 パーセントを目指して今事業を進めており、令和 9 年度までにすべての学校のトイレを洋式化する予定で進めている。

【いじめ・不登校などへの対応】

- 「いじめ・不登校対策推進事業」について、いじめや不登校に対しても上手く対応されているということだが、全市的にみると、コロナ明けで不登校が激増というような形になっている。様々な要因が多様化していると書いてあるが、その辺りどのように現状を分析しているか。

(市の取組状況等)

原因の分析については本当に難しく、一人一人に様々な要因があると考えている。子どもたちに寄り添うことが第一原則で、保護者の方と会話を繰り返し、そして子どももそうだが、保護者を孤立化させないことを心がけている。その上で、学びの場の保障を目指し、オンラインでの授業参加を呼びかけている。また、校内での別室対応については、学校に来た時に一人にするのではなく、できるだけいろいろな職員が関わるということを心がけている。なかなか学校に足を運べない子については、市内に適応支援教室明日花、明日花東分室があることを紹介している。昨年度からはフリースクールとの連携をしていて、とにかく学びの場の保障をし、孤立化させないことを大事にして取り組んでいる。

【国際理解教育の推進】

- 小学校、中学校の現状の英語教育はどのような状況か。

(市の取組状況等)

小学校 3 年生、4 年生では、今、外国語活動を行っており、小学校 5 年生、6 年生で教科化されて、外国語の授業を行っている。また、ALT を小学校 23 校に 7 名配置して、授業の中で活用している。中学校には ALT を配置していないが、デジタル教科書で動画を紹介して英語の会話の模擬体験に取り組んでいる。

【「生きる力」を育むための各種教育活動への支援】

- 「ふるさと新発見学習推進事業」について、委託料として 40 万円計上されているが、具体的にどういったことが行われているのか。

(市の取組状況等)

稲沢市の特性について、生徒が自ら学び、考えることや、身近な地域の調査学習を通して稲沢市への愛着、誇りを培い、これからの稲沢を担う人づくりにつなげることを目的として本事業を推進している。具体的には、中学校 2 年生の社会科で、身近な地域の調査についての学習があり、この学習において、自然、環境、文化、伝統、生活、都市といった稲沢市に密着したテーマを生徒自身が選択し、自ら学び、考える学習を行っている。各中学校で、優秀な作品の代表の生徒 1 名を決め、12 月に市内の 9 中学校が集まって、表彰式と発表会を行っている。委託料の 40 万円については、その事業を進めるに当たり、報告書作成に向けての紙代やインク代、報告書の製本費、入賞者への記念品代などに使っている。

【教員の多忙化解消の推進】

- 「スクール・サポート・スタッフの配置」について、とても効果があり、教員からも好評で 3 年間順調に数が増えてきていると思うが、今年度はどのような活用状況か。

(市の取組状況等)

今年度は小中学校全 32 校に 1 人ずつ、時間数も 800 時間配置している。加えて、一部の学校で 2 学期からスクール・サポート・スタッフを新たに 4 名配置する予定である。

【生涯学習の推進】

- 「地域学校協働活動推進事業」について、推進員の方が 20 校で 18 名派遣されているが、どのような成果が上がったか。

(市の取組状況等)

活動については、断片的ではあるが、登下校の見守り、除草作業、また地域の方々と児童生徒との交流など事業実施をされており、基本的にはこれまでの地域と学校でやってみえたことの延長になる。今年度も事業を進めて、より一層学校を核とした地域の活性化を目指して、予算的、人的なサポートをしていきたいと考えている。

●「地域部活動推進事業」について、市民吹奏楽団の方が中学生の指導に当たるという事業だが、先ほどの令和5年度の説明では令和6年3月10日までで一旦終了になっているが、今年度も継続中か。それとも新しいものを実施するということなのか。

(市の取組状況等)

昨年度、文科省から愛知県を介して指定を受け、治郎丸中学校ブラスバンド部で部活動地域移行の実証事業を実施した。今年度は愛知県で、他市町で実証事業が行われるという事で、本市として予算を挙げておらず、市内各中学校のどちらの部活動においても予算を伴う指導員の派遣活動という事は行っていない。ただ、令和8年に移行するという目標があるため、地域部活動検討委員会などの場で文化部活動、対象は吹奏楽部ではあるが、そちらをどうしていくかということを随時検討していく。

5. 委員長総評

令和5年度教育委員会自己点検・評価について、31施策84事業がほぼ計画どおり順調に実施されたことを確認した。

令和5年度新規の学校施設整備基本計画策定事業について、計画策定委員会を設置し計画案を策定したが、将来的な学校施設の建替えや学校再編を含む事業であり、さらに検討する必要性が指摘され、令和6年度上半期を目途に計画案修正について継続審議を行っている。小中学校へのエアコン整備について、令和5年度は小中学校の配膳室の空調設備設置及び中学校屋内運動場の空調設備設置のための設計を実施した。学校施設の長寿命化、トイレの洋式化等、児童生徒の安全を守り、快適な学校生活を維持し、学習成果を保証するための重要な対応である。学校給食施設について、令和5年度より学校調理場を集約した井之口調理場の建築工事が開始され、令和7年度2学期からの稼働開始を目指している。児童生徒への食に関する指導の進行とともに、さらなる学校給食の充実が期待される。

学校教育の関連施策として、外国人児童生徒の教育支援、特別支援教育の推進、「生きる力」を育むための各種教育活動への支援など多様な施策が継続され効果を上げている。コロナ禍を経て、全国的に不登校児童生徒数は増加しており、本市でも同様の傾向ではあるが、必要な対応と支援のための専門スタッフ配置の充実による効果が認められる。教員の多忙化解消の推進については、校務支援システムの継続利用、スクール・サポート・スタッフの効果確認とそれに基づく配置の充実により、教員が児童生徒の指導に余裕をもって対応することができ、質の高い授業や個に応じた指導が実現されることが望まれる。教育の情報化推進について、児童生徒1人に1台配備されたタブレットPCを活用した情報教育推進事業が本格的に進められている。

生涯学習について、令和5年度は「2019 稲沢市生涯学習推進計画」の中間見直し策定が行われた。地域学校協働活動推進事業として各学校に推進員を配置し、学校を核とした地域づくりの推進を開始した。生涯学習施設の整備事業は、市民会館改修工事をはじめとして計画どおり進められている。

スポーツ振興については、施設の改修が実施計画に基づいて着実に進められている。総合型地域スポーツクラブの活動等によるスポーツの普及振興、各種団体の育成・充実、トップアスリートとの交流事業など、市民の健康増進や競技力の向上を図っている。

図書館、美術館においては各年代の市民に向けて、引き続きサービスの維持・充実が図られ、大学等との連携事業が積極的に実施されている。

コロナ禍を経て、生涯学習およびスポーツに関するイベントや図書館、美術館における企画が計画に沿って本格的に再開、あるいは継続実施され、充実に向けて積極的な方向性が示されている。

以上、令和5年度の自己点検・評価を受けて、令和6年度の教育委員会の31施策89事業がより実効性を持ち、教育を通して市民生活の一層の充実につながることを期待される。

6. 稲沢市教育委員会外部評価委員会委員名簿

	役 職 等	氏 名
委員長	名古屋文理大学副学長	山 田 ゆ か り
副委員長	愛知文教女子短期大学教授	祢 宜 佐 統 美
委員	愛知県立いなざわ特別支援学校長	柴 山 め ぐ み
委員	稲沢市小中学校PTA連絡協議会家庭教育委員	青 木 友 紀
委員	稲沢市まちづくり連絡協議会会計	浅 井 壯 一 郎

令和 5 年度
教育委員会 の 自己点検・評価報告書

令和 6 年 8 月 発行

編集・発行 稲沢市教育委員会
〒492 - 8269 稲沢市稲府町 1 番地
電 話 0587 - 32 - 1435 (庶務課ダイヤルイン)
F A X 0587 - 32 - 1196